

令和3年度展示 「藤樹規」が伝える中江藤樹の教え

展示期間：令和3年4月3日（土）～ 令和3年9月30日（木）
 展示会場：近江聖人中江藤樹記念館
 滋賀県高島市安曇川町上小川 69 番地 TEL (0740) 32-0330

「藤樹規」は、寛永16年（1639年）中江藤樹が32歳の時に書かれたもので、道を求めて四書から五経に入った頃の代表作である。藤樹書院における教育綱領とも言うべき学則で、藤樹は朱子が学問の目的として説いた「五経」に、「大学」の三綱領を新たに加えた。また、手段や方法として朱子の「白鹿洞書院揭示」をほぼ踏襲しながらも、そこに独自の解釈を挿入している。

この頃の書院は、居宅を利用した簡素なものであった。藤樹規跋文の最後に「一二の同志と云々」とあるのも、簡素な講舎における藤樹学の確立にあたっての決意の表明と考えられる。また、今の学問はただ記誦詞章のみと書かれ、この「藤樹規」により修身実践を示そうとしたことがうかがえる。

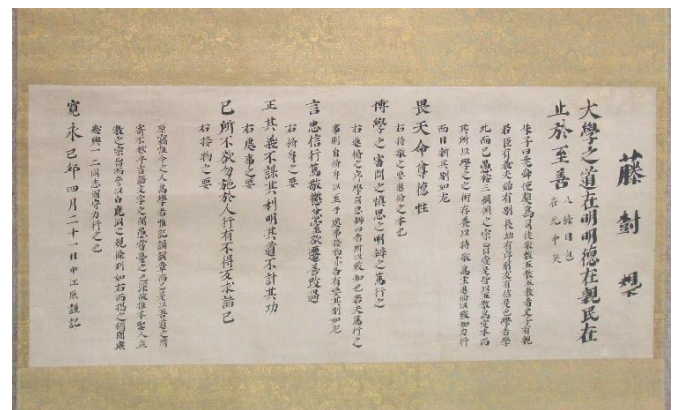
この展示では、「藤樹規」を中国の儒教の体系からわかりやすく解説し、「藤樹規」の下書きとされるもう1枚の藤樹規も紹介している。また、実際に門人を指導した最後の手紙「中村丈への書簡（絶筆）」を紹介し、藤樹が朱子学から陽明学へと暗中模索しながら学問を確立していく経過をたどり、その教えを読み解いていく。「藤樹規」と「中村丈への書簡（絶筆）」の藤樹の真筆2点は、今回初めての一般公開展示となる。



「中江藤樹像」藤樹書院所蔵



「中村丈への書簡」 藤樹書院所蔵



「藤樹規」 藤樹書院所蔵